「選ばれる森林土木」キャラバン

【治山課・森林整備課】

六月二十四日、全国キャラバンの一環として林野庁本庁より中部森林管理局に担当者が来局し、事業者及び局署職員を対象に「選ばれる森林土木」と題して、森林土木事業における適切な発注事務に関する説明会を行いました。

国有林における治山・林道事業は、市街地やその周辺で行われる工事と比較して、作業現場まで遠く、そこへ至る道路は未舗装であり、現地は急傾斜地で作業環境が厳しいというケースが大半です。このため、技術者・作業員の確保が困難となっているほか、労働時間短縮への大きな流れの中で、一日あたりの作業時間を確保しにくい条件下では、事業経営の観点からも敬遠される傾向が見られます。

こうした現状を踏まえ、林野庁では工事受注者の協力を得て、実際の工事に基づく経費や生産性向上に向けた取組の状況、ＩＣＴを活用した工事の取組事例などの情報収集を行い、森林土木工事費用の積算方法等について、断続的に改善を進めてきました。各森林管理局では、こうした取組の普及啓発や推進を図るため、令和四年度から説明会を実施しており、今回はＷｅｂ参加を含め、約一三〇名が出席しました。

説明会会場の様子

説明会では、最初に林野庁本庁より、令和六年度から実施される積算等に関わる改善の取組についての説明があり、次に週休二日や熱中症対策、ＩＣＴ活用工事の取組などについて、各局別の令和五年度実績と事例が示されました。

その後、建設機械の製作事業者から、林道工事の測量を事例として、ＩＣＴ建設機械を活用することにより期待できる効果について具体的な説明が行われました。ＩＣＴの活用と言えば費用のかかる大がかりな建設機械を導入するイメージがある中、測量作業に活用することにより、あまりコストをかけることなくシンプルに省力化や安全性の向上が図られることが紹介されました。

意見交換の場では、森林土木事業者から、積算方法の継続的な見直しに対する好評価が示された一方、未だに手作業による積算が行われていることや、現地の状況を十分に反映できていないと感じる積算が見られるなどの意見が出されました。このほか、ＩＣＴ施工に不可欠なソフト導入に対する補助、国有林における導入事例の詳細説明を求める要望などもありました。

挨拶を行う本庁担当官

中部局においては、本庁と連携しながら、引き続き現地の状況を適切に反映した積算に努めるとともに、ＩＣＴの導入を積極的に進め、技術者不足や労働時間短縮の流れに対応した「選ばれる森林土木」を目指して取り組んでまいります。

シリーズ

「私の森語（もりかた）り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「山と街をつなぐ」

岸田木材株式会社
専務取締役
岸田　真志（まさし）

■自己紹介

大学卒業後、大手建設会社に入社し、東京や北海道で総務や営業の経験を積みました。二〇一八年、子どもの小学校入学を機に同社に入社し、現在は専務として営業だけでなく新規事業開発にも携わっています。

■活動内容

当社の本業は製材業ですが、近年、『山と街をつなぐ』取組みを進めています。

製材の現場では日々規格外の木材製品が発生します。〇を□にするのに製品に丸みがついているとNG、節があるからダメ、既定の数量でないと売れない…。でも、その価値観はこれまでの商慣習に縛られているだけで、規格からはじかれた製品であっても、使い方次第ではまだまだ役に立つのではと考え、商店街の空き店舗を活用して木材の端材のアウトレットショップ「ヒミ ブリコ ラボ」を二〇二二年八月に開設しました。スギやヒノキ、カシなどの端材を販売し、DIY需要を見込んだワークショップも開催しています。

また、軽トラの荷台に搭載可能な「ひみ里山杉」で作ったサウナを制作し、屋外サウナの体験イベントにも出店するなど、見る人がわくわく楽しくなるような活動もしています。

ヒミ ブリコ ラボ

軽トラサウナ

さらに、「ひみ里山杉」のストローや樹皮を原料にしたインク、チップを原材料に使用したビールの開発にも取り組んでいます。インクとブリコラボの取組みは二〇二二年のウッドデザイン賞にも選出され、それなりに面白がってくれる人もいるのだなと感じています。木材がもっとみんなの生活に当たり前に溶け込んでいる社会となるよう、もっと身近に感じてもらい、里山の保全と持続可能な社会になることを目指していきたいです。

「ウッドデザイン賞2022」を受賞した
「ひみ里山杉からできたインク」
京都の文具メーカーとのコラボ

■メッセージ

岸田木材株式会社は、地元の資源を活用し、地域と共に歩む企業として、持続可能な地球環境と健康で幸福な社会を目指しています。「ひみ里山杉」を通じて木の魅力を広く伝え、これからも新たな価値を創造していきます。

北陸3県（石川・富山・福井）の
県産材活用連携事業「キノワホクリク」による
クラフトビール「すぎのわ」

■連絡先

富山県氷見市
十二町万尾前二四七―一
岸田木材株式会社
https://kishidamokuzai.co.jp/

シリーズ 中部の保護林（第39回）

ヒメコマツの希少な群落を有する天然林

小菅山（こすげやま）ヒメコマツ希少個体群保護林

設定目的

長野県北部にある小菅山（こすげやま）（一、〇四六メートル）の岩石地帯において、通常単木的に自生するヒメコマツがまとまって自生している希少な群落が見られ、この個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、小菅山の西側斜面の標高八四〇～一、〇四六メートルに位置しており、林齢約三百年のヒメコマツやブナを主体とする天然林等で構成されています。周囲のブナと比べてヒメコマツの樹高は高く、遠望によって確認することができます。

所在地
長野県 飯山市

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ 秘蔵写真

今は昔の林業

第39回

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

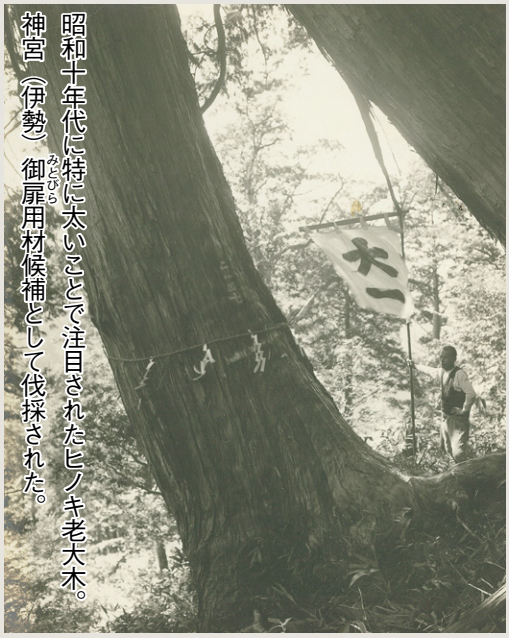
中部森林管理局総務課
井上 日呂登

「裏木曽」その三
大ひのき

江戸前期より強度の伐採が行われた木曽地域に対して、比較的森林資源が残されていた裏木曽は大材の産地として知られていくことになりますが、かつてどれ程の巨木が存在したのかは今となっては推測するしかありません。

江戸時代後期の江戸城西の丸再建のための出ノ小路（現在の東濃森林管理署加子母裏木曽国有林）での大材伐出（第三十八回参照）の際には「カナテコ」と呼ばれていた樹齢千年以上の伝説的なヒノキ巨木が伐採されています。この「カナテコ」、昭和三十年代に国宝姫路城の「心柱」修理用材として加子母裏木曽国有林で伐採されたヒノキ巨木、そして後述する「大ひのき」が記録上残っている特に大きな巨木とされます。

「大ひのき」は江戸時代後期には既に出ノ小路で神木、木曽山随一の巨木と知られていたヒノキであり、樹高二十間（約三六メートル）、目通り（地上一・二メートルの高さ）の周囲長二十三尺（約七メートル）と記録されています。裏木曽を代表する巨木でしたが、昭和九年九月に室戸台風による暴風で地上一二メートルで折損してしまいます。その後、完全に枯死してしまい昭和二十九年に伐採されました。なお、昭和五十六年に同じ加子母裏木曽国有林で巨大ヒノキが発見され、以降「二代目大ヒノキ」と呼ばれています。



昭和十年代に特に太いことで注目されたヒノキ老大木。神宮（伊勢）御扉用材候補として伐採された。

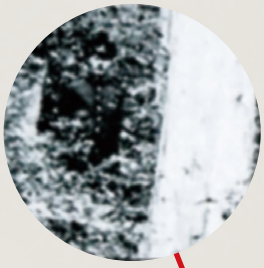
姫路城「昭和の大修理」の際に、城を支える「心柱」用材として昭和三十四年に伐採されたヒノキ巨木。樹高三五メートル、目通り直径一・二メートルとされる。写真に写っている人物と比較することでその大きさが実感できる。

大正末から昭和初め頃の撮影と思われる「大ひのき」

昭和初め頃の撮影と思われる「大ひのき」

昭和九年の室戸台風で折損した「大ひのき」

これらの巨木がいずれも加子母裏木曽国有林（出ノ小路）に存在していた訳ですから、まさに「巨木の森」と呼んでよろしいかもしれません。こうした大木が多い特異な森林が形成されたのは、急斜面であり伐採・搬出が困難であったこと、風当りが弱い地形であること、気候・地質がヒノキ・サワラの生育に適していたこと、江戸時代以降の尾張藩・地元での保護管理が適切であったことなどが理由として考えられています。



官服を着た職員と対比して木のサイズがうかがえる

昭和初め頃の「出ノ小路神宮備林」（現在の東濃森林管理署加子母裏木曽国有林）。帝室林野局でも有数の大材林として名をはせた。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【飛騨森林管理署
荘川（しょうかわ）森林事務所】
首席森林官　岩下伸也

荘川森林事務所は、飛騨森林管理署のある高山市街地から西へ、車で一時間ほどの高山市荘川町にあります。町の標高は約八〇〇メートルほどで、最高気温が三〇度を超える日でも朝晩は涼しく過ごしやすい場所です。町の中心部には清流庄川が流れ、川底が見えるほど透き通った水は、地域の田畑を潤し、町の北に位置する日本屈指のロックフィルムダムである御母衣（みほろ）ダムを満たし、いくつもの支流と合流して富山湾へ注ぎます。

日本屈指のロックフィルダム御母衣ダム

当事務所は、庄川の源流部に広がる森林を管轄しており、管轄面積は約一五、六九〇ヘクタール、スギ、ヒノキ、カラマツなどの人工林約六割とブナやミズナラなどの天然林約四割で構成されています。

当事務所が管理する国有林では、伐採から造林、保育に至る施業を実施しており、事業を実行する請負業者への監督業務が森林官の大きな仕事の一つです。また、間伐する立木を調査する収穫調査や、民有地と国有地の境界の確認、国有林野の貸付業務など多岐にわたり、これらを非常勤職員との二名で行っています。

私は今年度、初めて森林官となり、先輩方の作ってきた森林や地域との関係を引き継ぎ、日々の業務を進めています。森林官は、森林や現場を直接目で見て確認し、考えることが最も大事だと考え、造林や木材生産の事業が始まってからは、勤務のおよそ七割を現場へ行くことに充てています。現場を見る度に様々な発見があり、将来、価値のある森林にするため、どのような事に注意して管理すれば良いか、請負業者にどのように指示すべきかなど、悩み考えながら仕事をしています。

管内の国有林は携帯の電波が届かない場所が大半で、未舗装の林道を一時間以上走行してようやく到着する現地もあり、出発前の車両の点検や適切な服装、衛星電話や飲み物の準備は安全確保のため欠かせません。現場に行く途中では岩魚（いわな）が泳ぐ沢の透き通った流れ、林道沿いに咲く花々や、日々変化する木々の葉の素晴らしさに時間を忘れそうになります。こうした環境や様々な経験ができる森林官の仕事を任されたことに感謝し、日々、山の事を考えています。

■未来の担い手へのメッセージ

五〇年前、一〇〇年前に植えられた木が伐採されて木材となり、あなたの家の柱や机、椅子など様々な木製品に生まれ変わり将来に残っていきます。伐採された土地には、新たに小さな苗木が植えられ、次の伐採まで何代もの職員が携わり、管理が継続されていきます。国有林の仕事は、森林官のように直接森林に携われる業務だけではありません。しかし、国有林の仕事はすべて、人の一生よりも長い期間を見据えて結果を出すという壮大なドラマに繋がっています。それを素晴らしいと感じてくれたのなら、ぜひこの職場へお越しください。

事務所前で筆者（左）と非常勤職員

国有林モニターのご紹介

中山　絵美子
（愛知県）

◇国有林に期待すること

生物多様性の保全はもとより土砂災害の多い昨今、土壌保全の縁の下の力持ちに。

（写真：牟呂松原頭首工にて）

※「頭首工」とは、主に農業用水などを河川から取り込むため、川の流れをせき止めて用水路に引き入れるための水門や堰堤などの施設で、用水路の頭の部分にあることからこのように呼ばれています。

◇自己PR：（趣味や特技など）

好きな事はテニスとフラワーアレンジメント。最近始めた茶道や手話の勉強に悪戦苦闘中。

◇国有林モニターに応募した理由

幼い頃、父の実家近くの東金ダム（千葉県）へ遊びに行きダム好きに。高じて、独立行政法人水資源機構が募集する広報誌モニターの研修として豊川の牟呂松原頭首工を見学したり、東海農政局が募集する木曽川の犬山頭首工見学会に参加する中で、水を守るのは樹木であると気づき、国有林モニターにならせて頂きました。

中部森林管理局では、管内（富山県、長野県、岐阜県、愛知県）にお住まいの方を対象として、国有林が果たしている役割や現状をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく「国有林モニター」の取組を行っています。令和６・７年度の国有林モニターの皆さまからお寄せいただいた投稿について掲載してまいります。

グリーンサポートスタッフ（GSS）活動がシーズンを迎えます

中部森林管理局では、春から秋までの登山者が増える時期にあわせて、登山利用の集中化等に伴う植生荒廃等を防止するため、「森林保護員（グリーンサポートスタッフ「通称：GSS」）を雇用し、人々が多く訪れる山岳地帯において巡視やマナーの啓発活動を行い、貴重な森林生態系の保全に取り組んでいます。

これから本格的な夏山シーズンを迎える中、北アルプス、戸隠・黒姫、カヤの平、上高地、美ケ原、乗鞍、中央アルプス、万波、天生、金華山の各地区で活躍されるグリーンサポートスタッフの活動の様子がHPへ掲載されますので、どうぞご覧ください。

GSSの活動報告は
こちらから
↓

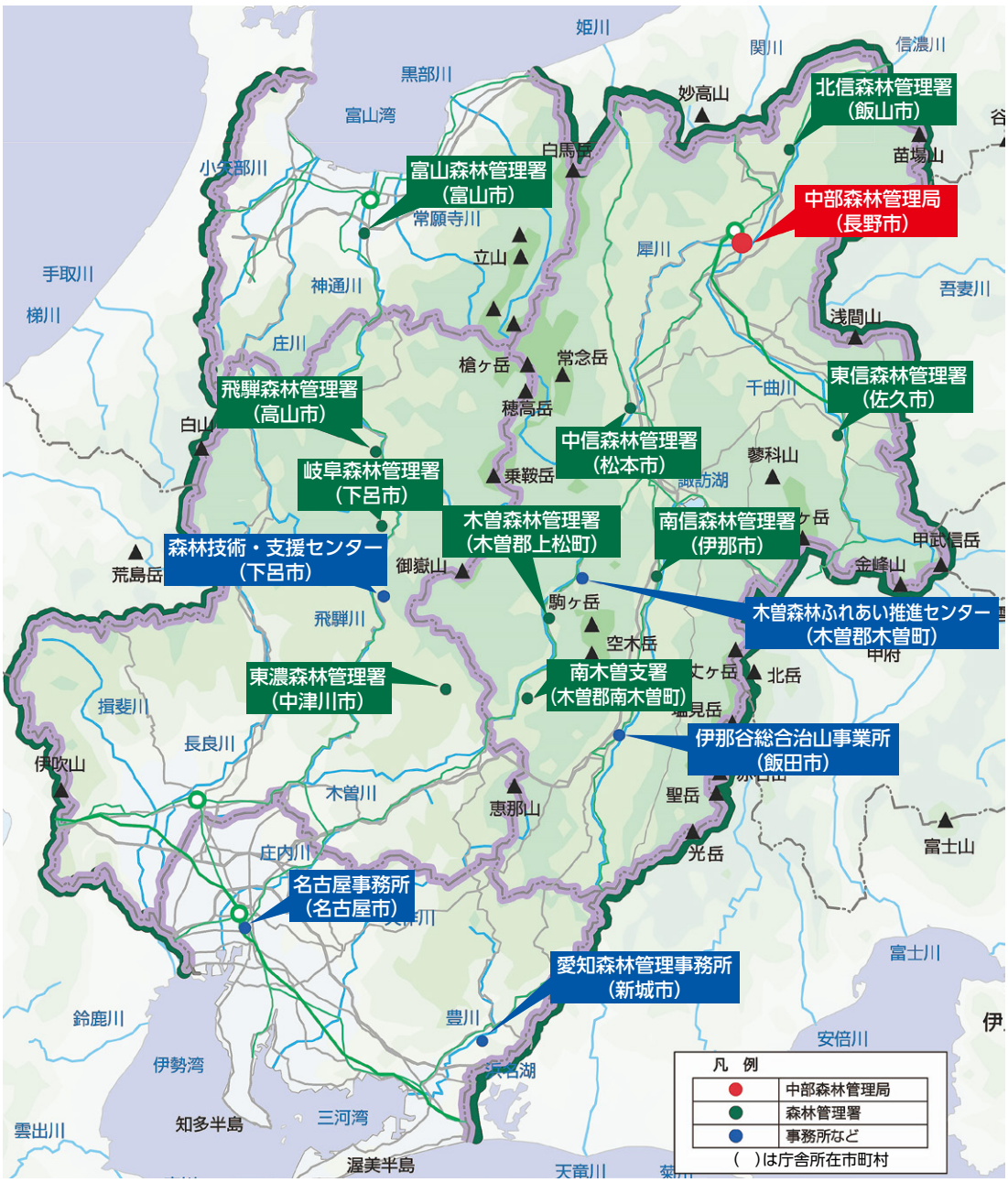
編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、**migoro@maff.go.jp** まで電子メールでお送りください。）

♪富士は日本一の山～。７月から富士登山のルールが大きく変わり、最も利用者の多い山梨県側の「吉田ルート」５合目にゲートが設置されました。１日の登山者を最大4,000人として通行料2,000円を徴収し、「弾丸登山」対策として午後４時から午前３時の通行が制限されます。4,000人のうち3,000人分はネット予約枠で、海外からの登山者などにも対応しています。

今からン十年前の富士山では海外の方と出会った記憶はなく、自転車(ロードバイク)を担いで頂上を目指す男性を覚えています。山小屋は満員で横向きに寝るだけでした。山頂からの景色はもちろんよかったのですが、翌日にレンタサイクルで富士五湖周辺をめぐり、なだらかで美しいすそ野を見ながら、富士山は登るよりふもとから眺めるものだなぁと感じたのです。山頂まで歩いたからこその実感だったと思います。遠～い過去の話です。

「日本の屋根」と言われる北アルプス、南アルプス、中央アルプスには、この夏も多くの登山者が訪れることでしょう。初心者から上級者まで様々だと思いますが、事前準備を入念に行い、体力を過信せず、時には引き返す勇気も大切になります。そして、標準装備品に「携帯トイレ」を加えたうえで目的地までの行程を楽しみましょう。



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。